昭和57年　第778号
1月24日

市報 にいがた

市の人口

		前月比
人口	455,397	(+234)
男	223,397	(+129)
女	232,000	(+105)
世帯数	145,149	(+43)

56年12月末日現在

発行日 毎週日曜日
発行所 新潟市役所
新潟市西堀通6番町866
電話代表(28)1000
編集人 高橋甲子（担当企画部広報課）
印刷所 ㈱第一印刷所

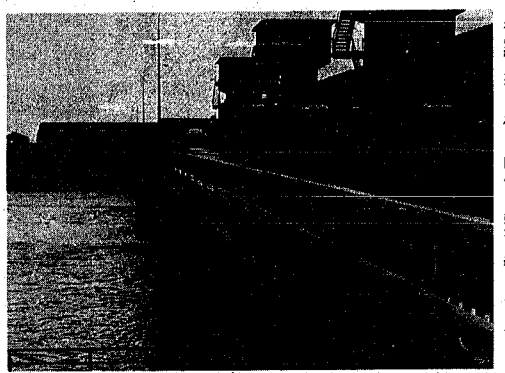
本川大橋今夏開通へ

東西新潟の交通緩和に一役

東西新潟を結ぶ架け橋として早期開通が待たれていた本川（ほんせん）大橋は、東側取り付け道路の改良工事と舗装工事を残すのみとなり、今年夏ごろには供用開始の運びとなりました。

この橋が完成しますと、関分以西から駅南方面への距離が一気に縮まり、市内の交通緩和に大いに役立つものと期待されます。

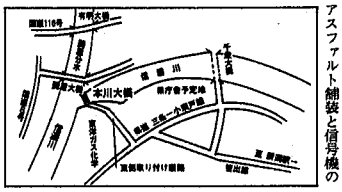
本川大橋は、市道早島―出来島線に架かる橋で、関屋団地と新潟を結びます。長さは九十九㍍、幅十二㍍、両側に歩道をとり、二車線通行が可能となります。


今夏開通が予定される本川大橋

関屋分水がつくられた際、信濃川水門を管理する橋が必要となりました。この付近には、昭和大橋から帝石橋までの四・九㌔の間に橋がなく、地元の人たちは対岸を間近に見ながら、ぐるりと遠回りしなければならない不便をかこっていました。そのため、水門の建設と併行して四十七年に本川大橋の建設に着手し、五十年に完成しました。

橋と西側の取り付け道路は早々と完成したものの、東側の取り付け道路の整備が遅れ開通が延び延びになっていました。

東側の道路は、日軽金新潟工場と東洋ガス化学の境界を通り抜け、県道三条―小須戸線に直結するルートで長さは六百二十二㍍。三月までに道路の改良工事を終え、その後アスファルト舗装と信号機の設置を行い、夏ごろには開通の予定です。



市がこれまでに投入したお金は、橋と取り付け道路を含めて約七億二千万円にのぼります。

この大橋が開通しますと、特に関分以西から駅南方面へはぐっと近道になり、大幅な車の流れも変わり、市内の交通緩和に一役買うものと大いに期待されています。

純ケ山地区公共下水道都市計画変更案の縦覧

市では、純ケ山地区の公共下水道計画を都市計画決定するため、第二号公共下水道（中部処理区）の都市計画変更案を次のとおり縦覧に供しています。

この案に意見のある方は、縦覧期間満了の日までに市長に意見書を提出することができます。

記

都市計画の種類および名称
新潟都市計画第二号公共下水道

縦覧場所　市下水道課管理係（本庁七階）

縦覧期間　一月二十六日～二月九日

時間短縮が図られるとともに、

クローズアップ

諸橋正さん

16年間、毎朝学童の交通安全指導を続ける

諸橋正さん（58歳、横七番町通二）

死者二十九人、傷者千八百二人、件数千四百九十。昨年の新潟市の交通事故状況である。

（五十八歳、横七番町通二）。電気店を経営する傍ら、学童の交通事故防止のために、毎朝登校時間帯に街頭指導に立って十六年。

「家の前の交差点に信号機がなく、車がなかなか止まってくれない。子供の交通事故が心配だった」と始めたキッカケを話す。

自分が街頭に立っている間は、これまで交通事故は一件もなかった。が、立っていないときに子供の死亡事故が発生し、胸が痛んだ。

自分の息子さんも、バイクに乗っていて、ダンプカーに巻き込まれ生死の境を見ては信号を無視し、横断歩道を渡ろうとする」と嘆く。

寒い朝、吹雪の日は特に

さまよう。親として事故の恐ろしさを十分経験した。

是初のころは注意すると「絡んで来る人もいて苦労した」。「子供は交通ルールを守るが、大人はスキを

つらい。反面、喜びも大きい。栄小、舟栄中の生徒から「おはようございます」とあいさつを受けると元気が出る。二、三百風邪で寝込んだりすると「おじさん風邪を引いたの、どうしたの」と心配してくれる。

「おかげ様で、六年間無事故で卒業出来ました」と赤飯を炊いて持って来てくれた親もいた。

交通事故を減少させるためには「家族ぐるみ、地域ぐるみで取り組まないとダメ。飲酒運転が減らないのは、心の持ち方の問題」とキッパリ。「体の利く限り、これからもずーっと続けていきたい」とファイトを燃やす。

交通指導隊の中央隊長でもある。

市勢あれこれ

農家数、従事者数

昭和五十五年の農業センサスによると、市の農家（経営耕地十㌃以上かつ年間の農産物販売額十万円以上）数は四、六二一戸。そのうち専業農家が六四二、兼業農家が八六%。

専業農家率は九、七八%。

農業就業人口は九万四、一六一人、女五、八一四人。このうち基幹的農業従事者は約七割の六、七三五人。

鳥屋野▼農業地区の順。逆に兼業農家の割合が高い地区は中野小屋、

の一番高い地区は茨塚で四八%。続いて内野、曽野木

「市報にいがた広場」どしどし意見を

“市報にいがた”では、あなたの意見、随想、グループ活動紹介、市への提言、要望、苦情、質問―などを掲載する「みんなの広場」欄を設けています。質問には誌上で必ずお答えします。どしどしご応募下さい。

応募方法　六百字以内にまとめ、住所、氏名（紙上匿名も可）、年齢、連絡先電話番号を記入し、市広報課（〒951 西堀通り六一八六六）へ。

新潟再発見①

朝市

長谷川惣平（沼垂東1）

新潟らしさ、新潟の魅力―とは。日ごろぼっ然とわかっていても、さて、具体的なイメージとなると、なかなか思い浮かばないものです。

新幹線開通を間近に控え、思わず私たちが見落しがちな“にいがた”の良さをもう一度見直してみませんか。

今週から写真でさぐる“新潟再発見”を連載します。なお、写真は第三十一回市観光写真コンクールの入賞作品の中から選びました。（コンクールの入賞者の氏名は四面に掲載）。

新鮮で豊富な野菜を求めてにぎわう白山の朝市。働く新潟女性の生活力がうかがわれる。すげがさで新潟のローカル色と風俗を強調しました。

（長谷川惣平さん）

◉昨年の火災・交通事故結果まとめる（二面）
◉成人式写真特集（三面）
◉さいの神復活（中野小屋地区で）～地域の話題～（四面）

第15回不用品交換会

日時　1月30・31日午前10時半～午後3時半
会場　大和新潟店2階出逸いの広場
委託受け付け　1月28・29日午前10時半～午後3時半
取扱品　贈答品、その他不用の新品に限る（大型商品、生鮮食品、日持ち指定の品は除く）
問い合わせ　大和新潟店（☎28―1111、内線351、359）へ

電話加入権の公売

日時　1月27日午前10時～
会場　市納税課
その他　買受代金は午後1時までに現金で納付。電話局で行う権利移転手続きのときは、住民票と印鑑が必要です。
問い合わせ　市納税課（☎28―1000）へ

盆栽講座

日時　1月29日午後1時15分～3時15分
会場　市園芸センター研修室
テーマ　盆栽の針金かけ
講師　渡辺亮氏（日本植木協会会員）
定員　50人（先着順）
申し込み　1月24日から電話で市園芸センター講習会係（☎86―1034）へ

第39回市民健康教室

日時　1月29日午後1時半～3時
会場　中央公民館4階405号室
テーマ　「お年寄りの腰痛の話」
講師　能登省三氏（市医師会）
定員　50人（先着順）
申し込み　1月28日までに電話で市衛生課（☎28―1000、内線583）